

平成〇〇年△△月□□日 ◇曜日 ▽校時
 第2学年△・◇組 (男子〇〇名、女子△△名)
 場所 〇〇組教室
 指導者 〇 〇 〇 〇

「単元の評価規準」、「指導と評価の計画」については、中学校・高等学校は中単元分、小学校は大単元分を作成する。

大単元

中単元

1 単元名 保健「社会生活と健康」(労働と健康)

2 単元の目標

- (1) 社会生活における健康の保持増進には、労働と健康に関する活動や対策が重要であることに関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。(関心・意欲・態度)
- (2) 社会生活における健康の保持増進に関わる課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、総合的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。(思考・判断)
- (3) 社会生活における健康の保持増進に関する課題の解決に役立つ労働と健康に関する活動や対策についての基礎的な事項を理解できるようにする。(知識・理解)

※「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」の【評価規準に盛り込むべき事項】から語尾を「～できるようにする」に変えて記載する。

※「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「知識・理解」の順で表示する。

3 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
単元の評価規準	社会生活における健康の保持増進には、労働と健康に関する活動や対策が重要であることに関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	社会生活における健康の保持増進に関わる課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、総合的に考え、判断し、それらを表している。	社会生活における健康の保持増進に関する課題の解決に役立つ労働と健康に関する活動や対策についての基礎的な事項を理解している。
学習活動に即した評価規準	①労働災害と健康について、関連する資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ②働く人の健康の保持増進について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に、意欲的に取り組もうとしている。	①労働災害と健康について、資料等で調べたことを基に、課題を見付けたり、解決の方法を整理したりするなどして、それらを説明している。 ②働く人の健康の保持増進について、学習したことを、個人及び社会生活や事例と比較したり、分類したり、分析したりするなどしている。また、筋道を立ててそれらを説明している。	①労働による傷害や職病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことについて理解したことを発言したり、記述したりしている。 ②労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善を含む健康管理と安全管理が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。 ③働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理と共に、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて理解したことを発言したり、記述したりしている。 ④働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることが重要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。

※単元の評価規準については、【評価規準に盛り込むべき事項】を記載する。

※学習活動に即した評価規準については、「評価規準の設定例」を参考に、授業をイメージして作成する。また、「知識・理解」については、学習指導要領解説の「～理解できるようにする」の文章を引用し、文末表現を「発言したり、記述したりしている」とする。

4 単元について

(1) 教材観

その単元の内容について、学習指導要領解説を参考に、健康・安全に関する社会的背景等を考慮し、教材の特徴を明記する。

(2) 生徒観

児童生徒の学習の様子やこれまでの保健学習において、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「知識・理解」について、どのような指導が行われ、どの程度、学習の力が身に付いているかを明記する。

(3) 学習を進めるに当たって

上記の教材観や生徒観から、教師がどのような内容に力点を置き指導していくかを具体的に明記する。その際に、単元・小単元の目標を具現化するための教師の意図的・計画的な指導が明記する。

5 指導と評価の計画

		第1時	第2時(本時)	第3時	第4時
主 な 学 習 内 容 ・ 学 習 活 動		労働災害と健康①	労働災害と健康②	働く人の健康の保持増進①	働く人の健康の保持増進②
		○労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたこと。	○労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善を含む健康管理と安全管理が必要であること。	○働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理と共に、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つこと。	○働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であること。
		1 「働くことの意味」、「理想の仕事」について考える。 2 産業構造、働き方はどのように変化してきたか、資料をもとに整理する。 3 産業構造、働き方の変化に伴い、健康面でどのような変化が現れたかを、資料をもとに整理する。 4 資料から得た内容を伝え、成果を共有する。 5 働き方と労働災害の変化についてまとめる。	1 前時を振り返る。 2 安全管理について、危険を予測するための資料、危険を可視化するための資料をもとに、作業形態と作業環境を改善するための方策と、安全を確保し、推進するための責任者の役割について考える。 3 健康安全について、健康診断の結果を踏まえて必要な事後措置を検討し、労働者の健康保持を考える。 4 労働災害を防止するための方策についてまとめる。	1 前時を振り返る。 2 働く人の健康状態を把握するための対策(一般健康診断と特殊健康診断)及び職場における健康増進活動について整理する。 3 メンタルヘルスケアについて、実施したチェックに基づき、適切な措置や助言について考える。 4 ワーク・ライフ・バランスについて整理する。 5 働く人の健康の保持増進のための対策についてまとめる。	1 前時を振り返る。 2 余暇の活用とワーク・ライフ・バランスについて考える。 3 習得した知識をもとにディスカッション(ディベート)を行う。 2名×4チーム×5会場 4 討議内容、主な論点と判定結果を伝え、成果を共有する。 5 生活の質の向上と健康の保持増進についてまとめる。
評 価 機 会 等	関	①【観察】			②【観察】
	思		①【観察・ワークシート】	②【観察・ワークシート】	
	知	①【ワークシート】	②【ワークシート】	③【ワークシート】	④【ワークシート】

※主な学習内容・学習活動については、「労働と健康」の内容のまとめりで示している。
 ※「知識・理解」の学習内容から、何時間必要かを考慮し、単元計画を作成する。
 ※小単元の時間数を①②で示す。
 ※生徒の主な学習活動について、1～5の数字で示す。

6 本時の展開（2 / 4 時間）

(1) 労働災害と健康②

(2) 本時の目標

- ・労働災害と健康について、資料等で調べたことを基に、課題を見付けたり、解決の方法を整理したりするなどして、それらを説明することができるようにする。（思考・判断①）
- ・労働災害の防止には、作業形態や作業環境の改善を含む適切な健康管理と安全管理が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりすることができるようにする。（知識・理解②）

(3) 展開

☐ : ねらい ☐ : 学習内容 - - - - - : 発問・指示など

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 7分	<p>1 働き方と労働災害の変化について整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のグループを編成する（4人組）。 ・前時の学習について確認する。 	
	<p>我が国では、「産業構造」と「働き方」にどのような変化がありましたか。これらの変化に伴い、労働にかかわる健康課題はどのように変化しましたか。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで確認した内容を発表し、前時の内容について、理解を共有する。 	<p>○第3次産業就業者、テレワーカーの増加等の変化に伴う健康課題の変化について確認させる。</p>
展開 ① 20分	<p>労働災害を防止するための方策について、安全管理と健康管理の観点から考えよう。</p> <p>2 本時の学習のねらいを把握する。</p> <p>3 安全管理について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険を予測するための資料（イラスト）を用い、災害のリスクの低減策を考える。 <p>ワークシートを用いて「潜んでいる危険」、「予想される事故・健康障害」、「改善の方法」をグループで検討しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートをもとにブレインストーミングを行い、意見を出し合う。 ・グループで検討した内容を発表し、注意したり改善したりするべき不安状態や不安行動について理解を共有する。 ・職場には、法令により「安全の担当者」を置くことが定められており、職場の安全確保に努めていることを理解する。 ・危険ステッカーを用い、可視化することによる危険の周知・共有を考える。 <p>危険を可視化し、従業員で共有するためのツールに「危険ステッカー」があります。グループで、インパクトのあるコメントを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで作成したコメントを発表し、注意点をみんな（職場）で話し合うことの効果を考える。 ・職場における労働災害防止の取組は、整理 	<p>○本時は、労働災害の防止するには、何が必要なのかを考える授業であることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考を活発にさせるためには、「高さ」「安定性」「手すりの有無」などの「状態」、障害が発生しそうな作業の仕方などの「行動」、他人の動きや風など、外からの「影響」に着目するよう促す。 <p>○多くのグループは共通して挙げられた項目（又は、少数のグループからしか挙げられなかった項目）を板書し、理解を深めさせる。</p> <p>○労働安全衛生法の定めるところにより、「安全の担当者」は事業所の規模、職種によって名称や役割が異なることにも触れる。</p> <p>・グループで、インパクトのある（アピール性の高い）コメント、危険等を端的に表現しているコメントを考えるよう促す。</p>

	<p>整頓、危険の予知、危険の可視化、作業方法の学習、安全意識の啓発などがあることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 職場には、事務所の規模と業種に応じて、安全の確保と推進などを担当する責任者が置かれることを理解する。 	<p>○職場では、教育・研修による意識の喚起が、責任者のもとで安全管理の一環として行われていることを理解させる。</p>
<p>展開② 15分</p>	<p>4 健康について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康管理は、健康診断による労働者の健康状態の把握に止まらず、事後措置や保健指導、作業環境や作業形態の検討・改善を含む幅広い内容であることを理解する。 健康診断の結果、異常の所見があると診断された労働者の健康を保持するため、必要と思われる措置を考える。 <p>健康診断の結果、「異常所見あり」と診断された従業員がいました。あなたは、経営者として、勤務による負担を軽減するために、どのような対策を講じますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで検討した内容を発表しあい、労働者の安全と健康を確保するための方策について考える。 健康診断の事後措置として、①就業場所の変更、②作業の転換、③労働時間の短縮、④深夜業の回数の減少、等の措置を講ずる必要があることを理解する。 	<p>【健康管理に関する板書例】</p> <p><健康に働くためには？></p> <ul style="list-style-type: none"> 現状把握→異常が見つかったとき？ 仕事（作業）の在り方 仕事（作業）の環境 <ul style="list-style-type: none"> ヒントとして、時間（＝労働時間の短縮、深夜業の回数の減少）、場所（＝就業場所の変更）、内容（＝作業の転換）などの視点から意見を出し合うよう助言する。 <p>◆思考・判断 労働災害の防止について、資料等をもとに、課題を見付けたり解決の方法を整理したりするなどして、それらを説明している。（ワークシート）</p>
<p>まとめ 8分</p>	<p>5 労働災害を防止するための方策についてまとめる。</p> <p>労働災害を防止するためにはどのようなことが必要ですか。本時の学習を振り返り、健康管理、安全管理の両面からまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめた内容を発表し、どうしたら労働災害を防止することができるか、そのための制度や社会的な対策について理解を共有する。 教師のまとめを聞き、本時の学習内容を整理する。 次時の予告を聞き、学習の見通しをもつ。 	<p>○グループワークや教師の説明を踏まえ、各々でワークシートに記入させる。</p> <p>◆知識・理解 労働災害の防止には、作業形態や作業環境の改善を含む適切な健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができるようにする。（観察、ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> 労働災害は防止できるものであること、そのために、労働安全衛生法などの法令に基づき、国の制度、事業者の取組や安全衛生委員会等の活動など、社会的な対策が行われていることについて、知識として定着させることが大切である。

※「主な学習内容・学習活動」の中で、学習活動について、1から5の数字で示す。また、実際の生徒の詳細な動きについて「・」で示す。

※「○指導上の留意点 ◆評価」について、○で指導上の留意点を、◆で評価について示しているが、特に留意が必要なことや、指導のコツ、努力を要する生徒への手立て等については、「・」で示す。